

1 研究テーマ

「学びを生かし、豊かな人生を育む技術・家庭科教育」
～生活での気づき・発見が喜びに変わる「分かる・楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回 (小中合同)			第4回 (中止 希望者は オンライン参加)		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
6/15	5人	木山中	8/2	5人	益城中	11/12	6人	嘉島東小	1/20	/	木山中

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

本会では全員が免許外指導者という状況であり、各学校における指導の充実を図るためには何が必要だろうかということを考え、まず各担当者が疑問に思っていることや困っていることを事前に調査した。そして、授業を通して生徒に家庭分野の授業の重要性や必要性を感じさせたいと考えた。また、生活に生かせる力を養うために指導者の授業力の向上が一番重要であると考え、研究授業を行うこととした。なお、そのうちの1回は、小学校家庭科部会と合同で授業研究会を行った。このことにより小学校の実践から学び、中学校の授業実践の更なる充実を図った。

ア 研究授業（11月12日 場所：嘉島東小学校）

「まかせてね 今日の食事」における「分かる・楽しい」授業の提案

授業者：嘉島東小学校 吉田 幸広 教諭



写真1 GTによる献立作成のポイント説明



写真2 改善した献立を伝え合っている様子

(7) 自評及び意見・感想

- 実態アンケートから、偏食がちな児童が多かったため献立作成を通して、それが少しでも改善されるような姿を目指して授業づくりをした。GTに栄養面の説明をさせたのは、食の専門家の意見としてしっかりと子どもたちにバランスの良い献立の必要性を理解させるためであった。献立の変化が視覚的に分かるように、変更点を赤ペンで書かせたのは良かったと思う。（自評）
- 「旬を取り入れよう。」とあったが、旬という言葉をきちんと学んでいないため、知っている子、知らない子、意味が曖昧な子といたので、どこかできちんとおさえるべきだと思う。
- 小学校家庭科と中学校家庭分野での献立作成の共通点と相違点があり、こうやって互いに授業を見合うことでそれに気付くことができた。この交流を今後も続けていくことに価値があると思う。
- 本時の子どもたちは新型コロナ感染症の関係で、これまでに一度も調理実習をしていない。それで中学校に入学をしていくことになるが、それでいいのか？できる範囲で小学校でも実習などを通して、技能定着を図り、基本的技能は習得させておく必要がある。

- イ 研究授業（1月20日 場所：木山中学校）←新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
内容A「家族・家庭生活」における「分かる・楽しい」授業の提案
授業者：木山中学校 川上 泰治 教諭（希望者のみオンラインによる参加）



写真3 通学路安全チェックを行う生徒



写真4 地域をよりよくするために話し合う様子

(ア) 自評（授業研究会は行っていないため自評のみ）

○益城町は熊本地震の際に震源地となり大きな被害を受けた地域である。にも関わらず生徒の日常的な防災への意識は高くはない実態がある。そのため、この題材においても、日頃から非常時を意識した行動や地域との関わり方を考えてもらいたいと思ひ、この題材を設定した。またタブレット端末に入っている既存アプリケーションを使うことで、既知事実の確認や意見の視覚化・共有を図りやすいようにした。生徒の情報活用能力は上がってきていると感じている。

② 内容C「消費生活・環境」における教材と防災食の調理実習について実技研修の実施

一昨年度に計画をしていたが台風の影響で実施することができなかった内容について実技研修を行った。講師を外から招聘し、内容Cの教材紹介は県の消費生活センター相談員の方、防災食の調理実習では益城町の食生活改善推進員の方に講義していただいた。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

- 授業研究会を通してお互いの実践を深めることができた。また、会員が授業を行う上での悩みや工夫点についても情報を交換することができ、大変有意義であった。
- 小学校との合同の授業研究会では、小学校家庭科の視点からも意見交換ができた。小中で共に学ぶことであってもその学習の方法や形態、めあてが違うことが分かり、児童生徒の発達段階に合わせて学習方法を検討することの大切さを学ぶことができた。また、共通していることは、視覚的な情報を与えることは重要だが、与えすぎると子どもたちの考える機会を奪うことになっていくことが分かった。
- ICTを効果的に活用することで、子どもたちが主体的に学ぶことができる工夫がされていた。導入されたタブレット端末の利点をしっかり把握し、利活用されていた。自分の学校と環境が異なってもその発想やアイデアを持ち帰り実践につなげることができる。
- 免許外指導者で構成されている部会のため、自分自身の授業実践で大丈夫なのかが不安である。お互いに授業を見合う中で意見を交換し、学んだことを自分の実践に生かすことができていることが最大の成果である。

② 内容C「消費生活・環境」における教材と防災食の調理実習について実技研修の実施

- 消費生活の授業を行う際は教科書とノート中心で授業を進めてしまい、生徒が退屈しがちであった。たくさんの資料や話題を提供いただいたので、これを早速使い、生徒がより主体的に学ぶことができるように活用している。
- 実際に調理をしてみて、とても手軽においしく調理できることが分かった。非常時だけでなく、日常でも役に立つと思うので、各学校で実践に生かせる内容であった。
- 部会員の先生方が望んでいた研修が2年越しに実施できてよかった。来年度も実技研修会では先生方のニーズに合わせた研修を行っていきたい。
- とても有意義な研修であるが、参加者が少ないのが残念であった。免許外指導者の指導力向上のためにも、来年度も各学校1名の参加を呼びかけていきたい。

4 実践事例

(1) 学習構想案抜粋 (嘉島東小 吉田教諭)

4 本時の学習

(1) 目標 一食分の献立の工夫の仕方を知り、自分が考えた献立をよりよいものにすることができる。

(2) 展開 (3/10)

過程	時間	学習活動	教師の発問・指示(○) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点及び評価等	準備物
か だい をつ つか む	7 分	1 学習のめあてを設定する。 (1) 前の時間の学習の成果をふり返る。 (2) 本時の学習のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	○自分がつくった献立を見直してみよう。もっとよくするところはあるかな。 ・赤黄緑のバランスは考えたけど、他にもあるのかな。	・献立をよりよいものにするという目標を示し、どのような点に目を向けていけばいいのかを考えるようにする。 ・栄養教諭を紹介し、工夫のポイントを教えてもらって献立をよりよいものにしていこうことを伝える。(学習の見通し) ・家族に食事を作るという目的をもって、献立を考えるように意識付けをする。	前時のワークシート
【めあて】一食分の献立に必要なことを考えて、献立をよりよいものにしよう。					
し つ か り 考 え る	2 8 分	2 献立の工夫のポイントを知る。 (1) 栄養教諭の話聴いて、よりよい献立作りのポイントを知る。 (2) 自分の献立をふり返る。 3 自分がつくった献立を見直し、よりよい献立を考える。 ①一人学び ②グループ交流 ③全体共有	○栄養教諭の話聴いて、献立をよりよいものにする方法を知ろう。 ○自分の献立のどんなところを改善できそうかな。 ○今知った話を元にして、献立をよりよいものにしよう。 ・野菜を嘉島産のものにしてみよう。 ・今が旬の野菜や果物に代えよう。 ○自分が工夫したことを友達に伝えて、アドバイスをしあおう。 ○話し合ったことをクラスのみんなに発表しよう。	・栄養教諭の話聴き、献立を考えるときに大切なことをまとめる。 ・主食・主菜・副菜・汁物の役割 ・健康で安全な食材選びのポイント(旬の食材・産地地消 など) ・彩りの工夫の仕方 ・要点を整理して板書に残し、献立を改良する上でのヒントとなるようにする。 ・旬の食材が分かるものや、地元でとれる食材が分かる資料等示して、思考を深められるようにする。 ・栄養教諭と協力して机間巡視し、個別にアドバイスをする。 ・児童が修正を加えた部分は赤ペンで記入させるようにして、どの部分を改良したのかをふり返ることができるようにする。 ・どの料理にどのような食材を使うことができるかを調べられる資料や掲示物を用意しておく。 友達と自分の考えを交流し、アドバイスをし合うようにする。	ヒントカード
ま と め る ・ ふ り か え る	1 0 分	4 学習のまとめをする。 5 学習を振り返る。	○分かったことをまとめよう。 ○今日の学習をふり返りましょう。 ・一食に入れる食材の数が分かった。 ・先生や友達の助言を聞いて考えることができた。	・児童の発表内容を使ってまとめる。 【まとめ】献立をつくるのに必要なことは ① 主食・主菜・副菜・汁物で栄養のバランスを取ろう。 ② 旬の食材や地元の食材を取り入れよう。③ いろんな種類の食材を使おう。 【評価】(ワークシート・発表) 栄養のバランスを考え、工夫点を2つ以上(A 3つ)生かしてよりよい献立を考えてワークシートに記入している。	ワークシート

(2) 学習構想案抜粋 (木山中 川上教諭)

4 本時の学習

(1) 目標

- ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解する。
- ・家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決策を見出す。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題を確認する</p> <p>◇これまでは、家族には役割があることや、私たちの成長や生活は、家族や家庭生活に関わる地域の人々に支えられていることについて学習したな。</p>	
展開	40分	<p>2 自分の地域にはどんな行事や活動があるかを学級で確認する。</p> <p>◇まつり、運動会、餅つき大会、もぐら打ち、資源ごみの回収など</p> <p>3 それぞれの行事や活動にはどのような役割があるのか考える。</p> <p>◇地域住民の交流を深める、伝統や文化の継承、地域の安全を守るなど</p> <p>4 もしそれらの活動がなかったら、どんなことで困るか考える。</p> <p>◇地域の人のことを知らない、災害が起こった時に、助け合うことができない</p>	<p>○意見が出やすい雰囲気づくりを心がける。</p> <p>○発表の方法、聞く姿勢等学習規律に留意する。</p> <p>○意見が出やすい雰囲気づくりを心がける。</p> <p>○発表の方法、聞く姿勢等学習規律に留意する。</p> <p>○災害が起こった時の意見が出なかったら、教師がファシリテートする。</p>
		<p>【まとめ】家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っている。</p> <p>5 通学路の安全チェックをして、誰もが安心・安全に過ごせるために私たちが地域でできることを考える。</p> <p>◇ここは高齢者は危ないな。どうしたらいいかな。</p> <p>◇水害が起きたら、この道は安全だな。</p>	<p>【具体的評価規準】</p> <p>★【知①】家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。</p> <p>・発表、振り返り</p> <p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○地域の人と交流して、楽しかった思い出がないか考えるように促す。</p> <p>○ロイロノートを使って、資料1：国土交通省ハザードマップ、資料2：Googleストリートビュー、資料3：益城町広域マップ、資料4：フィッシュボーン図を配布し、それらをもとに解決案を考えさせる。</p> <p>○避難すること以外の答えが出るように、中学生は自助ではなく共助の態度が必要であることを伝える。</p>
終末	5分	<p>6 本時の振り返りをする</p>	<p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の解決方法等を共有する。</p>